



株式会社セック

Systems Engineering Consultants Co.,LTD.

<http://www.sec.co.jp/>

銘柄コード:3741

2012年3月期 決算 説明資料

2012年5月23日

<目次>

- **事業概要**
- **決算概要**
- **今期業績見通し(2013年3月期)**
- **注力分野の状況**
(オープンプラットフォーム、環境エネルギー、ロボット)

事業概要

QCD & Iをスローガンとするお客様中心ビジネス

「New Element to New System」

New Element による New Systemで不可能を可能に、
それが最高のお客様満足度に、ビジネスの高付加価値化に繋がる

業績のベースを確保する

業績を向上させる



40年の実績のあるリアルタイムソフトウェアビジネス(フロー)と
リアルタイムソリューションビジネス(ストック)の両輪で、ビジネスを拡大する

セックの技術サービス

ビジネスフィールド	技術サービス			リアルタイムソリューション
	リアルタイムソフトウェア			
	エンベデッドソフトウェア	コアテクノロジー	技術アプリケーション	
モバイルネットワーク		オープンプラットフォーム技術 携帯電話端末搭載ソフトウェア 国際標準技術	基幹ネットワーク	RealtimePowerシリーズ  機能安全対応 RTミドルウェア RTMSafety  地上デジタル放送用 組込みソフトウェア airCube  位置情報サービス プラットフォーム airLook  SVG製品ファミリー airSmartG  超高速 インメモリXMLデータベース Karearea
ワイヤレス	スマートフォン タブレット 携帯電話端末	地上デジタル放送技術		
インターネット	非接触型IC 情報家電 車載端末	ベクトル描画技術 XML	Webシステム	
社会基盤システム		位置情報サービス技術	防衛 交通(ITS, 航空) 環境エネルギー	
宇宙先端システム	人工衛星搭載機器 ロボット	ロボットソフトウェア共通化技術	人工衛星 天文	

決算概要

(2012年3月期)

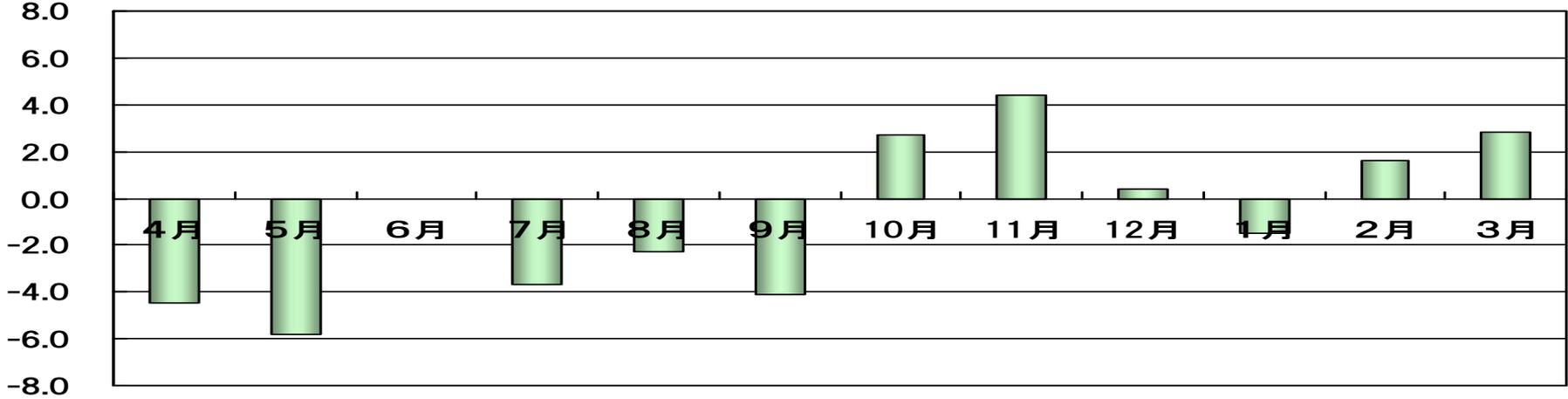
事業環境

2012年3月期の事業環境

平成23年4月から平成24年3月までの月別売上高は、9月まで前年同月比で減少となったものの、10月以降1月を除いて増加に転じており、IT需要は明るい兆しが見えてきた。

単位：%

情報サービス業売上高前年同月比推移(経済産業省:特定サービス産業動態統計)



■ 業界全般

成熟期を迎えているかのように見える市場、クラウドコンピューティングの活用で「持つから使う」への流れ
→労働集約型から知識集約型へ、受託開発からサービス型へ、多重下請け構造から水平分業へ、3つの構造変化

■ 当社

携帯電話からスマートフォンへ、オープンプラットフォームのビジネスモデルに変化
→オープンプラットフォームの商談が活発、コンペが増加し、Android開発実績の先行優位の提案で対応

2012年3月期重点テーマ

変化先取りに注力し、技術提案力で顧客基盤を強化

期初方針	総括
<p>他社との差別化を図り、競争優位を確保して受注につなげる: QCD&I</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ■技術提案力を主体とした活発な営業活動を継続、新規の商談を開拓し受注につなげる。 ■獲得した商談は、改めてQCD&Iにより、お客様満足度を向上させ、リピート商談につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■Androidを中心にコンペに技術提案力で積極的に参加し商談を獲得した。 ■お客様満足度の向上により、リピート商談が増加した。
<p>成長が期待できる市場に参入する: オープンプラットフォーム、環境エネルギー、ロボット</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ■オープンプラットフォームにガラパゴス(地上デジタル放送、電子マネーなど)、国内仕様対応にフォーカス。 ■環境エネルギー分野のビジネス化を推進し、開発案件の受注を目指す。 ■ロボットは、研究開発でRTミドルウェアを機能安全対応し、ビジネス化を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■オープンプラットフォームは、地上デジタル放送や電子マネーを中心に好調だった。 ■環境エネルギー分野は、国からの補助金による研究開発を実施、商談数は多かったものの受注金額は少額であった。 ■ロボットはNEDOの受託研究で製品化を完了した。ビジネス化は、今年度に期待している。
<p>変化先取りに注力: 研究開発と製品開発に積極投資</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ■研究開発は、NEDOなどからの受託研究であるロボットのRTミドルウェアの機能安全対応と環境エネルギーに取り組む。 ■製品開発は、airCube(地上デジタル放送用組込みソフトウェア)のAndroid版の機能を強化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ロボットのRTミドルウェアについて機能安全の国際規格の認証を取得した。環境エネルギーは予定どおり実施。 ■製品開発は、airCubeのAndroid版の機能を拡張した。継続して、顧客要望に対応する予定。

2012年3月期総括

売上高は30億円を突破し過去最高、受注高・受注残高も過去最高に

■売上高、利益面ともに計画を上回り、前期比で増収増益

- 売上高は、Android搭載スマートフォンやオープンプラットフォームの開発が好調で、過去最高（売上高：計画達成率106%、前年同期比115%）
- 営業利益は、売上高が伸びたことより、計画を大幅に上回って増益（営業利益：計画達成率152%、前期比278%、経常利益：計画達成率145%、前期比210%）

■受注高及び受注残高は計画を上回り、前期比でも増加

- 受注高は、オープンプラットフォーム関連の商談が活発で計画を上回り、33億円となって過去最高（受注高：前期比115%）
- 受注残高は、9億を超えて過去最高（受注残高：前期比142%）

■オープンプラットフォームが業績を牽引

- Android搭載のスマートフォンやタブレットのエンベデッドソフトウェアが好調
- オープンプラットフォームの通信事業者向け技術アプリケーションが好調
- 非接触型ICのエンベデッドソフトウェアが好調
- ワンセグソリューションのairCube for Androidの販売が好調

損益計算書

	2011年3月期 (百万円)	2012年3月期 (百万円)	前期比 (%)	修正予想(11月) (百万円)	計画達成率 (%)
売上高	2,690	3,084	114.6	2,900	106.4
売上原価	2,021	2,185	108.1	2,100	104.1
売上総利益	668	899	134.5	800	112.4
販売管理費	559	595	106.4	600	99.2
営業利益 (営業利益率)	109 (4.1%)	304 (9.9%)	277.7	200 (6.9%)	152.0
経常利益 (経常利益率)	206 (7.7%)	435 (14.1%)	210.4	300 (10.3%)	145.0
当期純利益	80	242	302.8	170	142.9

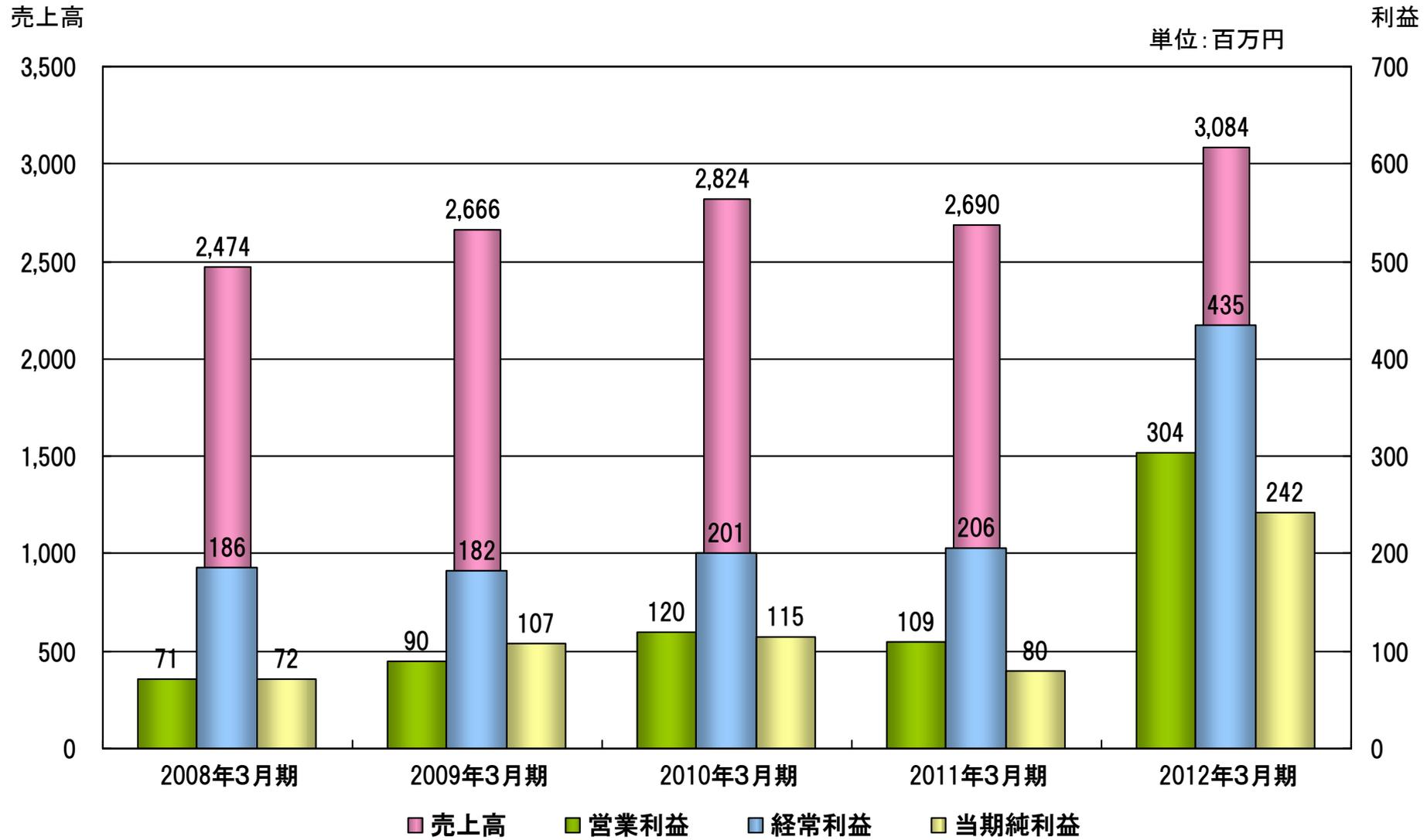
売上原価 社員増に伴う人件費の増加、外注費の増加、製品開発費は111百万円(前期比8%増)

販売管理費 研究開発費の増加、研究開発費は137百万円(前期比38%増)

営業外損益 ロボットと環境エネルギーの研究開発の補助金収入は、112百万円(前期比53%増)

特別損失 投資有価証券評価損は3百万円(前期は移転関連と会計基準適用の影響額が68百万円)

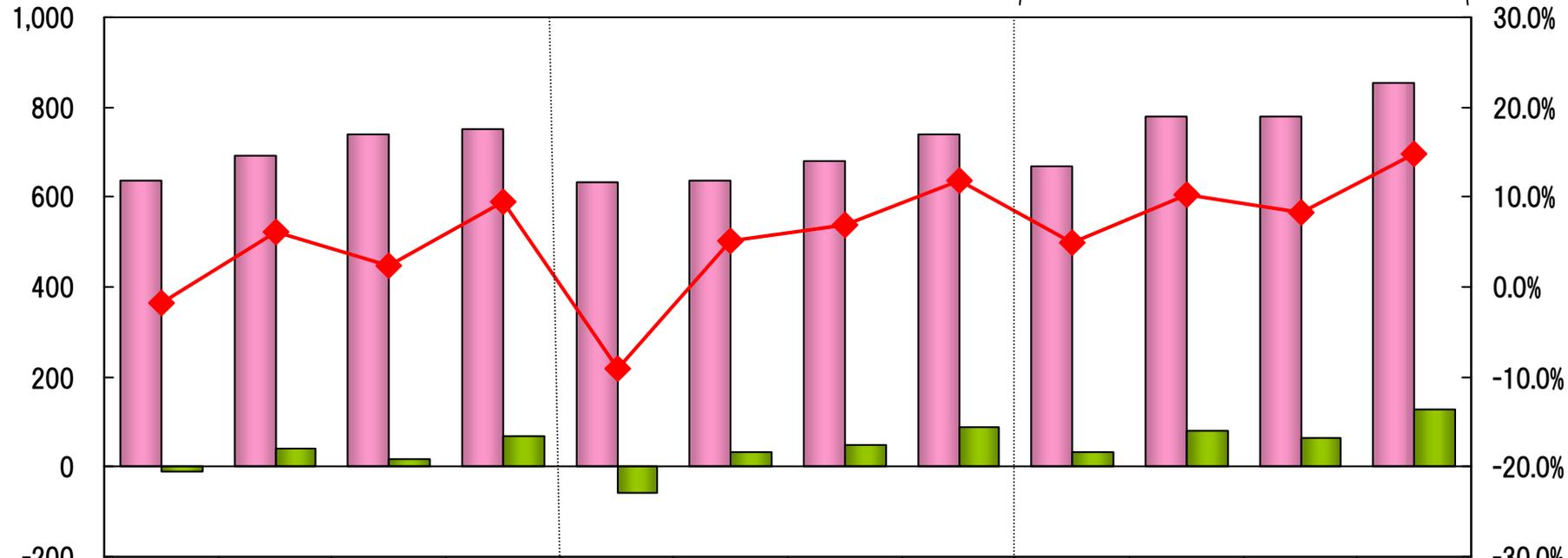
決算業績推移



四半期業績推移(PL)

すべての四半期が増収増益であった。営業利益率も安定して推移した。

単位:百万円



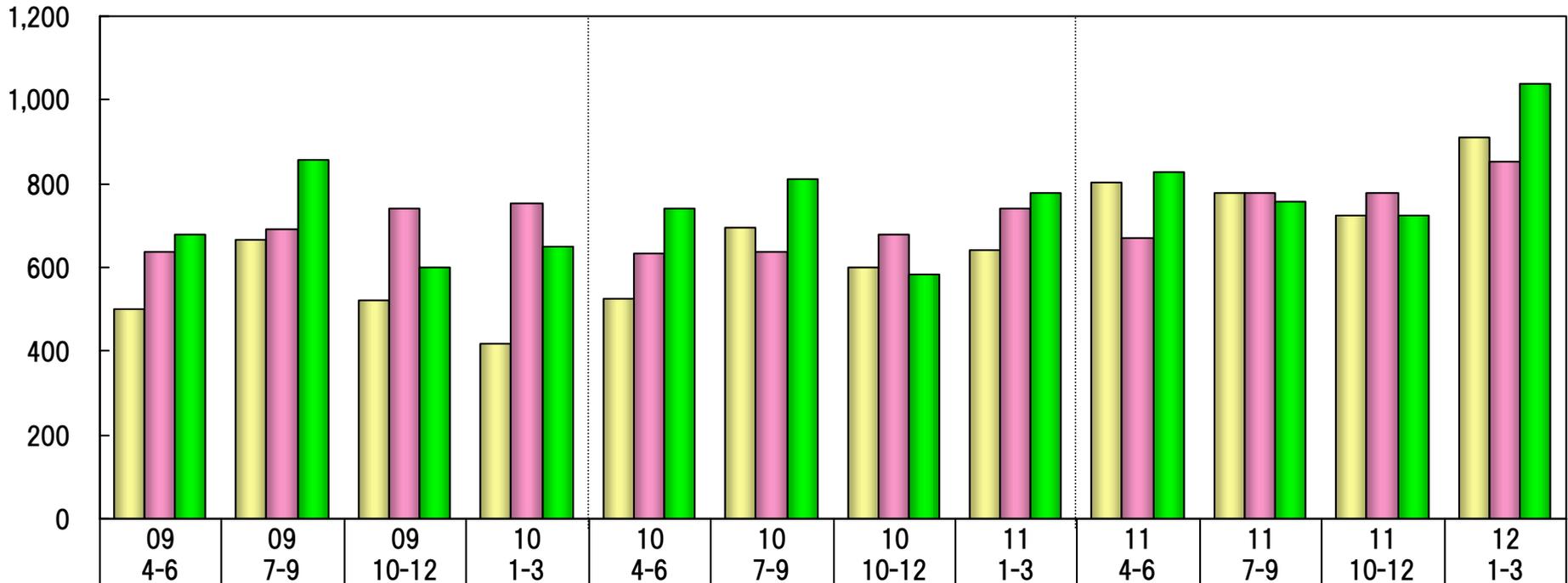
	09 4-6	09 7-9	09 10-12	10 1-3	10 4-6	10 7-9	10 10-12	11 1-3	11 4-6	11 7-9	11 10-12	12 1-3
売上高	638	691	740	753	632	638	680	739	670	779	780	853
営業利益	-10	42	17	70	-57	32	47	87	33	80	63	126
営業利益率	-1.7%	6.2%	2.4%	9.4%	-9.1%	5.1%	7.0%	11.8%	5.0%	10.3%	8.2%	14.8%

■ 売上高 ■ 営業利益 ◆ 営業利益率

四半期業績推移（受注）

受注高は上期、下期ともに前期を上回った。特に第4四半期の受注高が伸びた。
 受注残高は、前期を大幅に上回って9億円を超え、増収基調は継続している。

単位：百万円



■ 受注残高 ■ 売上高 ■ 受注高

BF別の状況

オープンプラットフォームが好調

ビジネスフィールド	2011年3月期		2012年3月期			前年同期比 (%)
	売上高 (百万円)	構成比 (%)	売上高 (百万円)	構成比 (%)	計画達成率 (%)	
モバイルネットワーク	316	11.8	356	11.5	96.2	112.4
ワイヤレス	1,071	39.8	1,385	44.9	117.4	129.4
インターネット	548	20.4	526	17.2	93.9	95.8
社会基盤システム	345	12.8	306	9.9	98.9	88.8
宇宙先端システム	305	11.4	293	9.5	98.0	96.2
ソリューション	102	3.8	215	7.0	119.9	210.3
合計	2,690	100.0	3,084	100.0	106.4	114.6

モバイルネットワーク
ワイヤレス
インターネット
社会基盤システム
宇宙先端システム
ソリューション

オープンプラットフォーム関連の技術アプリケーションが堅調
Android搭載スマートフォンのエンベデッドソフトウェアが好調
不況の影響で開発計画の縮小や延期が継続
官公庁系の大型技術アプリケーションが減少
宇宙関連の開発計画の縮小や切り替え時期
airCube for Androidのロイヤリティ収入の増加

⇒ 売上高は増加、利益面も増加
⇒ 売上高は増加、利益面も増加
⇒ 売上高は減少、利益面も減少
⇒ 売上高は減少、利益面も減少
⇒ 売上高は減少、利益面も減少
⇒ 売上高は増加、利益面も増加

技術サービス別の状況

エンベデッド(端末)が増加し、それと連携する技術アプリ(サーバ)も増加

技術サービス	2011年3月期		2012年3月期		前年同期比 (%)
	売上高 (百万円)	構成比 (%)	売上高 (百万円)	構成比 (%)	
エンベデッドソフトウェア	1,237	46.0	1,542	50.0	124.7
コアテクノロジーサービス	212	7.9	210	6.8	99.0
技術アプリケーション	1,138	42.3	1,115	36.2	98.0
ソリューション	102	3.8	215	7.0	210.3
合計	2,690	100.0	3,084	100.0	114.6

- エンベデッドソフトウェアとソリューションは、オープンプラットフォーム関連が好調であったことにより増加
- コアテクノロジーサービスと技術アプリケーションは、ほぼ前期並み
- 情報端末を使用したクラウドシステム(エンベデッドソフトウェアと技術アプリケーション)の開発が増加

期末の受注状況

前期を3億円弱上回る受注残高で今期がスタート

ビジネスフィールド	2011年3月期		2012年3月期				受注残高 前期比 (%)
	受注高 (百万円)	受注残高 (百万円)	受注高 (百万円)	計画達成率 (%)	受注残高 (百万円)	計画達成率 (%)	
モバイルネットワーク	373	143	339	91.4	127	87.6	88.8
ワイヤレス	1,108	142	1,596	127.2	352	179.0	248.3
インターネット	594	120	589	103.4	182	140.2	151.9
社会基盤システム	384	69	358	111.2	121	149.4	175.3
宇宙先端システム	297	78	276	91.9	61	77.0	77.9
ソリューション	156	88	193	107.7	66	75.1	75.1
合計	2,914	642	3,354	111.8	911	126.3	142.0

- 受注高は、計画を大幅に上回り、前期比でも439百万円の増加
- 受注残高は、計画を大幅に上回り、前年同期末比でも269百万円の増加
- ワイヤレスBF・社会基盤システムBF・インターネットBFの受注残高が前期より大幅増

期末貸借対照表

単位:百万円

	2011年3月末日	2012年3月末日	増減
流動資産	2, 823	3, 170	347
固定資産	1, 148	1, 202	54
流動負債	417	669	252
固定負債	44	55	11
純資産	3, 510	3, 648	138
総資産	3, 971	4, 373	402
自己資本比率	88. 4%	83. 4%	▲5. 0%
流動比率	677. 0%	473. 7%	▲203. 3%
固定比率	32. 7%	33. 0%	0. 3%

流動資産 主に現金及び預金の増加

固定資産 主に無形固定資産(ソフトウェア)の増加

流動負債 主に未払法人税等、賞与引当金の増加

固定負債 特別な変動なし

キャッシュ・フロー計算書

単位:百万円

	2011年3月期	2012年3月期	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	▲58	604	662
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲60	▲158	▲98
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲76	▲102	▲25
現金及び同等物の増減額	▲199	343	542
現金及び同等物期末残高	1,653	1,996	343
参考)長期預金	500	500	0
参考)現預金+長期預金	2,153	2,496	343

営業キャッシュ・フロー 主に税引前当期純利益の増加による収入の増加

投資キャッシュ・フロー 主に差入保証金回収の減少による収入の減少

財務キャッシュ・フロー 配当金支払額の増加

今期業績見通し (2013年3月期)

2013年3月期業績見通し

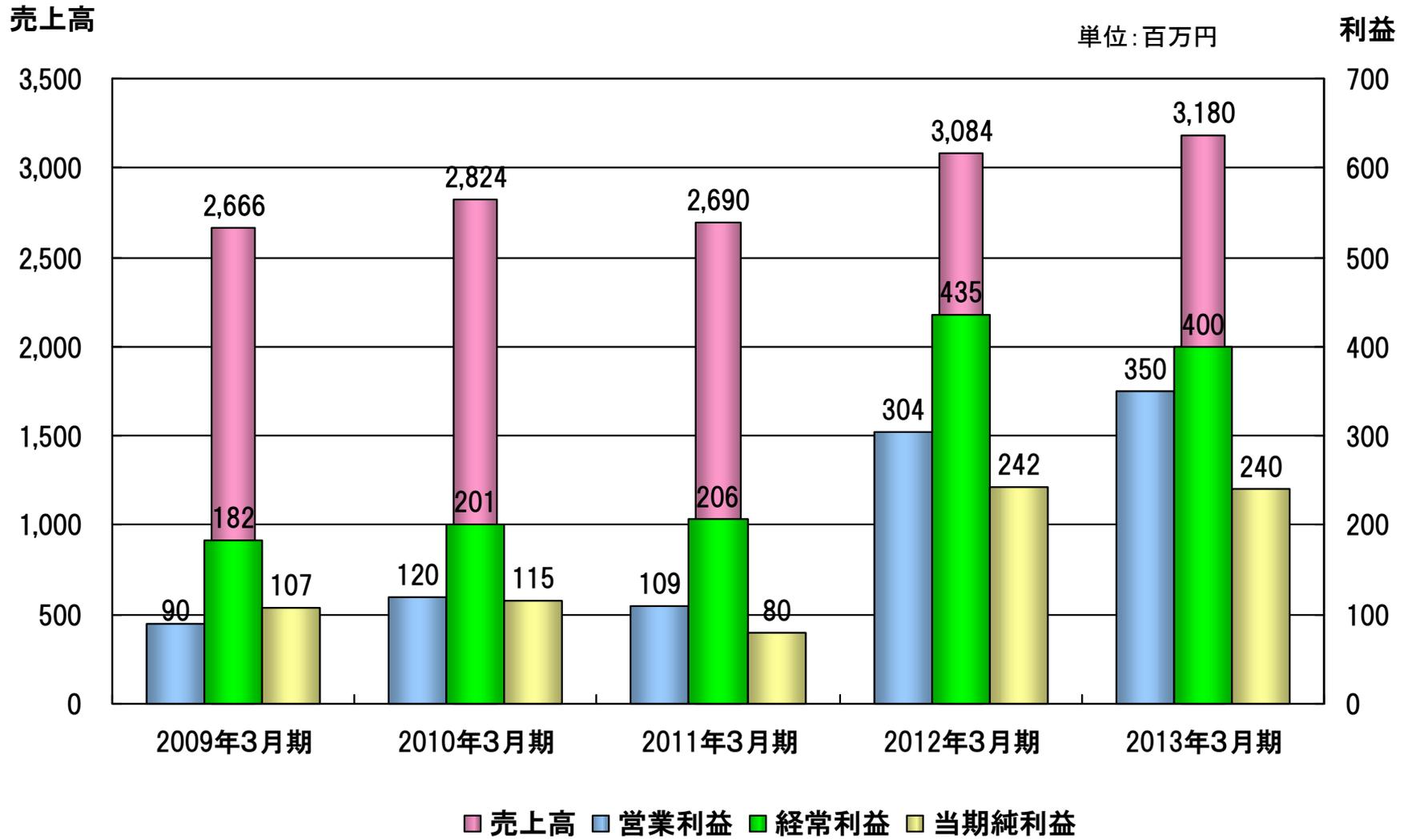
売上高は増収、営業利益は増益だが、経常利益は前期並みの見通し

単位:百万円

	2012年3月期 実績	2013年3月期 見通し	前期比 (%)
売上高	3,084	3,180	103.1
売上原価	2,185	2,300	105.2
売上総利益	899	880	97.9
販売管理費	595	530	89.1
営業利益 (営業利益率)	304 (9.9%)	350 (11.0%)	115.1 (1.1ポイント増)
経常利益	435	400	91.9
当期純利益	242	240	98.8

- 売上高は、前期に引き続きオープンプラットフォーム関連が牽引する見通しだが、全体的にはIT需要は回復傾向にあるものの大幅な伸びは期待できず、低成長が続くと予想し微増の計画
- 営業利益は、研究開発費が大幅に減少するが社員数増加に伴う人件費が増加し、15%程度の増益
経常利益は、研究開発の補助金収入が大幅に減少するが、ほぼ前期並み
- 大阪事業所を執務環境改善と震災時の本社代替拠点を考慮して移転、これに伴い固定資産除却損や移転費用など約10百万円の特別損失が発生する予定、税金の減少により当期純利益はほぼ前期並み

通期業績の推移



2013年3月期重点テーマ

変化先取りに注力し、技術提案力で顧客基盤のさらなる強化を図る

期初方針

他社との差別化を図り、競争優位を確保して受注につなげる: QCD & I

- 技術提案力を主体とした活発な営業活動を継続、新規の商談を開拓し受注につなげる。
- 獲得した商談は、改めてQCD & Iにより、お客様満足度を向上させ、リピート商談につなげる。

成長が期待できる市場に参入する: オープンプラットフォーム、環境エネルギー、ロボット

- オープンプラットフォームは、Android関連や電子マネー(NFC含む)、移動体通信事業者向けサービスなどの市場を開拓する。
- 環境エネルギー分野のビジネス化を推進し、復興需要を含めた開発案件の受注を目指す。
- ロボットは、RTMSafetyで介護や家庭、さらにスマートハウスなどの環境エネルギー市場との連携を視野に市場を開拓する。

変化先取りに注力: 研究開発と製品開発に積極投資

- 研究開発は、環境エネルギーを中心に取り組む。ロボットは、NEDOからの受託研究が終了しビジネス化に取り組むため、研究開発費は減少予定。
- 製品開発は、RTMSafety(機能安全対応RTミドルウェア)を5月初めに発売開始、airCube(地上デジタル放送用組込みソフトウェア)のAndroid版は機能強化中。

2013年3月期BF別業績見通し

オープンプラットフォームが堅調な見通し

ビジネスフィールド	期初の方針	予想
モバイルネットワーク	移動体通信事業者向けのオープンプラットフォームに関連するコアテクノロジーサービスと技術アプリケーションが期待できることから、ほぼ横ばい	➡
ワイヤレス	Androidを搭載したスマートフォンやタブレットのエンベデッドソフトウェアが好調を維持し、拡大	↗
インターネット	非接触型ICのエンベデッドソフトウェアは堅調だが、民間設備投資の回復が不透明なことから、ほぼ横ばい	➡
社会基盤システム	復興需要を含めた環境エネルギー分野と官公庁の入札案件などが期待できることから、拡大	↗
宇宙先端システム	衛星搭載エンベデッドソフトウェア、国の研究機関の受注も前期並みで、ほぼ横ばい	➡
ソリューション	Android版地上デジタル放送製品を中心に販売を強化し、拡大	↗

注力分野の状況

(オープンプラットフォーム、環境エネルギー、ロボット)

オープンプラットフォーム

国内仕様対応にフォーカスし、引き続きマーケット拡大

状況

- ・ 2008年よりAndroidスマートフォン向けマーケットを開拓。約6割の社員がAndroid技術に対応可能
- ・ 国内主要スマートフォンベンダーやキャリアなどビジネスが拡大、ソリューションも受注が進む
- ・ 「大規模なAndroidスマートフォンソフトウェア開発」と「日本国内仕様への対応／オープンプラットフォームにガラパゴスを」にフォーカスしマーケットを拡大
- ・ アプリからミドルまでトータルなAndroid向け統合ワンセグソリューションairCube for Androidを開発

実績（2012年3月期 売上高約16億円）

- ・ 大規模なAndroidスマートフォン、タブレット向けソフトウェア開発
- ・ 日本国内仕様への対応（ワンセグ、電子マネー）やマルチメディア、DLNA、NFC対応、カメラ機能など、アプリケーションやミドルウェアの開発を継続受注
- ・ デバイスソフト、ミドルウェアからアプリケーションまでの一貫した開発の受注拡大
- ・ ワンセグソリューションの販売、Androidスマートフォンやタブレットメーカー(4社)と契約
- ・ Androidに関する知識と実績を活かし、キャリア向けコアテクノロジーサービスを受注
- ・ キャリアや携帯メーカーのスマートフォンを使用した独自サービスのクライアント・サーバの開発



今後の方針（Android技術とマルチメディア、電子マネー関連技術の強みをさらに強化しマーケットを拡大）

- ・ スマートフォン並びにタブレット、電子マネー関連Androidソフトウェア開発のワンストップ化の推進
- ・ ワンセグソリューションairCube for Androidの機能拡張と販売推進
- ・ コスト競争力を強め、海外メーカーやマルチメディア放送関連市場を開拓
- ・ 次の成長のための新しいマルチメディア関連ソフトウェアの研究開発の促進

研究成果をソリューション化して他社と共同ビジネスを推進

状況

- ・2008年度: 急速充電器遠隔監視制御システム(G-EV)を開発。環境エネルギー分野への取組み開始
- ・2009年度: KDDIと共同で、経済産業省「大規模駐車場におけるスマート充電システム実証事業」にて「スマート充電システム」を開発、KDDIと共同で特許出願申請
- ・2010年度: NEDOの「蓄電複合システム化技術開発」共同研究委託先に選定されデンソー、豊田通商と共に商用施設用蓄電池付BEMS (Building and Energy Management System)の研究開発と実証検証に参画
- ・2011年度: 上記研究開発を継続

実績 (2012年3月期 研究補助金約11百万円、売上高約12百万円)

- ・受託開発／製品販売
- ・急速充電器遠隔監視制御システム「G-EV」保守運用→東京電力
- ・電気自動車充電プラットフォーム「スマート充電システム」販売
→地方自治体(2011年12月サービスイン)
- ・国内スマートシティ事業での環境案件の受託
→豊田市HEMS案件、北九州BEMS案件
- ・NEDO共同研究
- ・「蓄電複合システム化技術開発」の豊田市実証グループに参画
→ビル機器・設備等の運転管理によるエネルギー消費量の「見える化」エンジン開発、エネルギー需要予測エンジン、太陽光パネル発電予測エンジン等の予測エンジンの開発と電力制御(ピークカット)の検討、豊田市にて実際のサービス運営を実施し、ビジネスモデル、マーケットを検討予定



今後の方針

- ・「スマート充電システム」のビジネス化推進(KDDI、豊田通商とのアライアンス強化)
- ・商用施設でのBEMSのビジネス化を推進(デンソー、豊田通商、KDDI、トヨタ自動車とのアライアンス)
- ・環境エネルギー関連の受託開発案件の獲得



ユビキタス社会の究極の端末はロボット

状況

- ・ 2003年からロボットに取り組み、ロボット関連技術を持つ数少ないソフトウェアベンダーで先行優位
- ・ 2005年からNEDOからの受託研究を開始
- ・ 2008年4月にOMG(Object Management Group)で国際標準仕様となったRTC(Robot Technology Component)に準拠した**RTミドルウェア**をコアテクノロジーとしてビジネス化を推進

実績 (2012年3月期 受託研究補助金約1億円、売上高約55百万円)

- ・ NEDOからの受託研究
 - ・ 「次世代ロボット知能化技術開発プロジェクト」における2件の受託研究
 - ・ **機能安全対応RTミドルウェア RTMSafety**を作成し、IEC61508の認証を取得、製品化
- ・ 受託開発
 - ・ ロボット関連メーカー、大学からの受託開発
- ・ 展示会出展他
 - ・ 国際ロボット展にてRTミドルウェア関連の研究成果を展示
 - ・ 都市防災セキュリティ展にてAndroid端末と連携したセキュリティシステムを展示
 - ・ 日本ロボット学会等にて論文発表

今後の方針

- ・ **機能安全対応RTミドルウェア RTMSafety**を販売し、ビジネス化を推進
- ・ RTミドルウェアを活用した実用ロボットシステムの受託開発



配当の方針

■ 配当の方針

- 原則として安定的に配当する部分と所定の配当性向とを勘案して毎期決定する。配当性向は、当面30%を目指す。安定的に配当する部分は、1株当たり30円とする。
- 2012年3月期は、安定的に配当する金額30円（配当性向31.6%）とする。
- 2013年3月期は、安定的に配当する金額30円の予定とする。

この資料についてのご注意

- この資料の目的は、当社へのご理解を深めていただくためのIR情報をご提供することであり、投資の勧誘を目的としたものではありません。投資につきましては、ご自身でご判断願います。
- この資料には、当社の現在の計画、戦略、将来の業績に関する見通しなどが記載されております。こうした記述は、当社の将来の業績を保証するものではなく、経営環境をはじめ、さまざまな外部的要因の影響等により変化しうることをご承知おきください。
- この資料の作成に際しましては、細心の注意を払っておりますが、内容につきましていかなる保証を行うものでなく、この資料を使用したことにより生じたあらゆる損害などについて、当社は一切責任を負うものではありません。

ありがとうございました

ユビキタス社会の安全と発展のために

“ Realtime@net ”

本資料に関するお問い合わせ

株式会社セック IR室

電話 03-5491-4770